

支援のあり方を変えて

見えてきたもの

小林宏至（56） 品川教会



旅行代理店を営んで十年。わが社の主要な商品は、企業や各種団体を対象とした国内外への研修や視察を兼ねたツアーです。私たち旅行業者にとって、新型コロナウイルスによる影響は予想以上に深刻でした。二月ごろ、海外での研修旅行がキャンセルされたのを皮切りに、年内の予約の約九割がなくなったのです。

これまでもSARS（重症

急性呼吸器症候群）やMER S（中東呼吸器症候群）といった感染症で海外旅行を中止されるお客さまはいらっしゃいました。しかし、国内を含めてこれだけ多くのキャンセルが出る事態は今回が初めてでした。これが長続きすれば、社の経営状態をひっ迫しかねないと、不安になることもありました。そうしたなかで転機となったのは、当社が力を入れている企

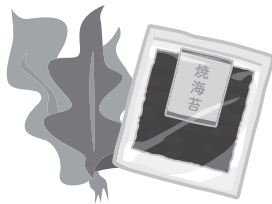
画の一つ、東日本大震災の被災地への復興応援ボランティアツアーでした。同ツアーは三月中旬にも実施する予定でしたが、コロナの感染リスクを考慮して急きょ延期することに。ツアー先の宮城県南三陸町でボランティアの受け入れをしてくださっている方々にその旨を伝えると、やはり観光客が減り、物産品の売れ行きが悪くなっている現状を打ち明けて

くれたのです。

それを聞いたとき、「力になりたい！」という気持ち湧いてきました。これまでのように現地に足を運び、ボランティアで漁業の手伝いをした

り、土産物店で買い物をしたり、また飲食店で食事をとったりする支援はできません。そこで、今度は逆に、地元の海産物などを私たちが仕入れて販売することを思いついたのです。それならば、被災地の経済を多少なりとも潤すことになるはずです。

すぐに南三陸町の名産であるワカメを仕入れ、近所の方への声かけや、会社のSNSなどを



通じたPRと販売をはじめました。すると、それを見た方から「ぜひ、協力させてほしい」「私も購入したい」という声が多数寄せられたのです。四月には、

もう一つのツアー先である福島県いわき市の農園で採れたブルーベリーを使ったジャム、五月には南三陸町のとろろ昆布や海苔など、仕入れる種類を少しずつ増やしていきました。

販売開始から六か月がたちました。いままツアーを組んで現地に行くことは難しい状況ですが、それでも被災地の方々が喜んでくださる声を聞くと、私自

身も元気をいただきます。

いまだ業務再開への道は厳しく、助成金などの制度でなんとか会社はもちこたえているという状況ではありません。しかし今回、こうして「現地での支援」から「いまできる支援」に発想を転換できたこと、そして現地の人たちと新たな絆を結べたことは、私としても大きな喜びでありました。これも、日ごろより壮年部活動や企業経営者の集まりである「六花の会」のお役で、柔軟な心を育ませていただいているおかげさまでです。

どんな状況でも知恵をふり絞り、仏さまから与えられた試練を乗り越えていけるよう、これからも精進いたします。